

# 絵本を活用した小学校英語の授業デザイン：

## タスクと異文化理解の視点から

秋田大学 佐々木 雅子  
齊藤 万由子<sup>1</sup>  
椎名 哲平<sup>2</sup>  
仲西 小春<sup>3</sup>

### 1. はじめに

平成 29 年 3 月に小中学校の新学習指導要領が公示され、小学校英語科教員養成の重要性が現実のものとして強く認識されるに至った現在、実践上の課題を実質的に解決しながらよりよい小学校英語教育を実現させる段階に入ったといえる。また、小学校英語教育がもたらす効果は後の中学校、高校での英語教育の礎となることから、指導者を育成する大学での教員養成課程および現職教員研修の充実が求められ、その具体的方策が着々と実行に移されている。

平成 29 年 7 月にはパブリックコメントの結果を踏まえ策定された「外国語（英語）コアカリキュラム」（東京学芸大学, 2017a）が同年 11 月 17 日に決定した。このコアカリキュラムは、東京学芸大学が文部科学省より「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」の委託を受けて実施した調査研究の成果である。大学の教員養成課程では平成 31 年度入学生から、このコアカリキュラムを含めた小学校英語教員養成が行われることになり、より専門性の高い教科指導を行う指導者が養成されることが期待されている。

また、小学校での外国語科（英語）の教科化に伴い、教科書を始めとする教材は大きな影響を持つことになるが、平成 30 年度 4 月からの移行期間を前に、小学校外国語教育における新教材 *Let's Try!*（中学年用）、*We Can!*（高学年用）が各学校、各教育委員会、小学校教諭免許状が取得可能な大学に平成 30 年 2 月に送付され、小学校外国語教育の目指す方向性が教材という姿で具体的に提示された。

本稿は、このような新学習指導要領公示、教員養成課程での外国語コアカリキュラム、

---

<sup>1</sup> 現在の所属は横浜市役所。

<sup>2</sup> 現在の所属は水戸市立見川中学校。

<sup>3</sup> 現在の所属は沖縄県立大平特別支援学校。

平成 30 年度使用分の新教材等送付という動きを背景に、教員養成課程の学生や現職教員がこれからの小学校外国語活動および外国語科（英語）をより豊かにしていくための授業デザインの一例を示すものである。指導する教員が目の前の学習者の興味関心を生かし、潜在的能力を引き出していくためには、教科書で効果的に指導できることに加え、自ら適切な授業デザインを行う力を身につけていくことが基本的に必要であると考えられる。授業デザインを支える理論に言及しながら、「絵本」という題材を活用し、「タスク」という概念により第二言語習得を促進することを考慮し、「異文化理解」を絵本のストーリーに沿って展開した授業デザインについて考察し、教員養成および教員研修における授業デザイン力育成方法の具体例を示す。

## 2. 「教員養成・研修 外国語（英語） コア・カリキュラム」との関連

教員養成および教員研修における授業デザイン力の育成方法を提示するに先立って、必要最低限の項目を示す「教員養成・研修 外国語（英語） コア・カリキュラム【ダイジェスト版】」（東京学芸大学, 2017b）の内容を確認することとする。これは、東京学芸大学による「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」における調査研究結果を簡潔にまとめ、教員養成と現職教員研修の一体的なコア・カリキュラムとして全国へ普及されることを想定し、英語力・指導力の向上に資するよう作成されたものである。教員養成と現職教員研修の一体化は、小学校英語教育における指導者の目指すべき姿を捉えやすくし、指導者として備えるべき能力について共通理解をもたらすことになる。なお、教員養成と教員研修の違いは、教員養成は基本的知識の理解に重きが置かれ、教員研修は実際の教室における技能を含む点に見られる。

### 2.1 絵本に関連するコア・カリキュラム

絵本を活用した授業デザインが関連する箇所としては、教員養成の場合、「[2] 外国語に関する専門的事項」の「1. 授業実践に必要な英語力と知識」の下位項目「(2) 英語に関する背景的な知識」の学習項目としての「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）」が該当する。その到達目標として「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解している。」とある。また、教員研修の場合は、「1. 指導に必要な知識・技能」の研修事項として「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）」に該当し、到達目標には「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解し、唱えたり歌ったりできる。」とある。教員養成と教員研修の差は、教員研修が実際に唱えたり歌ったりできることを含み、実践的な力を身につけることを意図している点にある。また、「小学校教員研修外国語（英語）コア・カリキュラム構造図」によると、「児童文学（絵本、

子ども向けの歌や詩等)」についての研修内容は、中心的役割を担う教員向けの研修の発展および推進を目的とした内容に区分けされているため、文部科学省作成の児童文学教材の有効な活用方法とともに、一般の児童文学教材についての知識・技能も含むと解釈できる。

## 2.2 タスクに関連するコア・カリキュラム

タスクに関連する箇所は、直接的にタスクという文言はないが、教員養成の「[1] 外国語の指導法」の「1. 授業実践に必要な知識・理解」の下位項目「(2) 子どもの第二言語習得についての知識とその活用」にある学習事項(○)のうち次の2点が該当する。また、到達目標(・)では、「指導に生かすことができる」こととしている。

### ○言語使用を通じた言語習得

- ・言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。

### ○コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて他者に配慮しながら、伝え合うこと

- ・コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。

一方、教員研修の関連する箇所については、「1. 指導に必要な知識・技能」にある学習事項(○)のうち次の2点が該当し、到達目標(・)では、教員養成同様、「指導に生かすことができる」こととしている。

### ○子どもの第二言語習得についての知識とその活用

- ・子どもの第二言語の学び方の特徴について理解し、指導に生かすことができる。

### ○第二言語習得に関する基本的な知識

- ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解し、指導に生かすことができる。

## 2.3 異文化理解に関連するコア・カリキュラム

異文化理解が関連する箇所については、児童文学の直下に記載され、学習事項/研修内容は教員養成も教員研修も「異文化理解」で同じである。到達目標については、教員養成では「異文化理解に関する事柄について理解している。」となっており、教員研修では「異文化理解に関する基本的な事柄を理解している。」であり、「基本的な」という文言が教員研修に付されているだけの違いである。

### 3. 授業デザイン

#### 3.1 着想の経緯

授業デザインの着想は、グリフィス大学での小学校外国語活動向けの教員研修に始まる。平成 24 年 8 月、秋田大学と大学間協定を結んでいるオーストラリアのグリフィス大学の付属英語学校で Teacher Training Program として 1 週間（8 月 6 日（月）～8 月 10 日（金））の教員研修に、秋田県内の小学校教諭 3 名が参加した。この研修は、平成 23 年度～平成 25 年度の科学研究費助成事業「地域連携による『外国語活動総合教育システム』のモデル構築と検証」（課題番号：23652128）の一環として実施されたオーダー・メイドの小学校外国語活動向けの研修、いわゆる海外版教員研修である。研修目的は、小学校外国語活動の充実発展に必要な知識と技能を吸収することに加え、多文化社会であるオーストラリアでのホームステイを経験し、異文化を自ら体験することであった。プログラムの授業のひとつで、オーストラリアの様々な地名と食べ物が出てくる *Possum Magic*（邦題：ポスおばあちゃんのまほう）という絵本を取り上げた講師が、実際にオーストラリアのラミントン、パブロヴァ、ヴェジマイトのサンドイッチを用意して絵本とともにオーストラリアの食文化を紹介した。この時、絵本は読み聞かせだけでなく、タスクの題材となり得ることを実感した。

その後、平成 26 年 12 月 11 日に秋田大学附属幼稚園のもちつきの行事に絡めて、年長の幼稚園児向けに *Possum Magic* に出てくる食べ物をストーリーとともに紹介して、初歩的な食の異文化理解に関わる読み聞かせを試みた。児童の発達段階と興味関心を生かせなかった点が課題であったが、この点を解決すればタスクの題材として小学校外国語活動に生かせる可能性は残ると感じた。

その可能性を追求するため、小学校での教科化を見据え小学校英語専科教員養成のための科目として設定した授業科目「英語科教育学概論Ⅰ」（平成 27 年度後期後半開講科目）において、*Possum Magic* を用いた授業デザインをする学生を募った。齊藤、椎名、仲西の 3 名が希望し、その絵本を用いた授業案を作成し、そのうち絵本を読む前の事前指導の一部を模擬授業で行った。その授業案と模擬授業を下地に、タスクと異文化理解を絵本に統合させた授業を、平成 27 年 11 月 30 日と 12 月 7 日の 2 回にわたって附属小学校の 6 年生のクラスにおいて実施した。

#### 3.2 絵本の活用意義と実践

コア・カリキュラムには、「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解し、唱えたり歌ったりできる。」とあるが、具体的にどのように授業をデザインするかについては如何様にも解釈できる。また、小学校学習指導要領解説外国語編第 2 節 2(3)

イ読むこと(エ)では、内容理解を促す絵と明確な主題とストーリーの特徴を生かすこと、繰り返し表現の活用、音声で慣れ親しんだ語句や表現の文字での識別と意味内容の推測を行う言語活動について述べられている(文部科学省, 2017a, p. 44)が、具体的な絵本の活用は教員の授業作りに任せられることになる。今回の授業デザインで着目した絵本の活用意義と、その意義を生かした実践を下記に述べることにする。

### 3.2.1 絵本の活用意義：コンテキスト

絵本の面白さはストーリーと絵が相俟って紡ぎ出す別世界へ誘われることではないだろうか。さらに、絵本には、言語習得を起こし異文化理解を醸成する方法に欠かせない要素であるコンテキストが備わっている。コンテキストの観点として、Dell Hymes の SPEAKING モデルが役に立つ。これは、人々がどのようにコミュニケーションをとるのかコミュニケーションを研究する分析ツールとして、Hymes によって提唱された下記の内容である。実際には 16 の構成要素を、記憶しやすく簡便にし、各項目の頭文字をつなげたものである (Hymes, 1972, pp. 59-65)。

<u>S</u> ettings	(状況/場面：時間、場所、物理的状況)
<u>P</u> articipants	(参加者、すなわち様々な話者と聞き手)
<u>E</u> nds	(コミュニケーションの目的)
<u>A</u> ct sequences	(メッセージの形式や内容(発話行為)の順番)
<u>K</u> eys	(話し方や書き方の調子や雰囲気：冗談、皮肉など)
<u>I</u> nstrumentalities	(コミュニケーションの形態：面談、電話、標準語、方言など)
<u>N</u> orms	(適切性に関する社会的規範)
<u>G</u> enres	(コミュニケーションのカテゴリー：物語、会話、政治討論など)

言語使用場面でことばの意味を左右する重要な役割を果たすコンテキストは、外国語を理解する際に意味を推測する大きな手掛かりとなる。今回の授業デザインにおける絵本の活用意義は、ストーリーを取り巻く自然なコンテキストの利用にあった。

### 3.2.2 実践

コンテキストは、本実践に使用した *Possum Magic* では明確であった。色彩豊かな絵と、まとまりとつながりがはっきりしている筋の展開によるものであった。

この絵本は、オーストラリアの森(bush)にすむ動物ポッサムのハッシュ(Hush)とそのおばあちゃん(Grandma Poss)が、おばあちゃんの魔法で姿が見えなくなったハッシュを元通り見えるようにするための冒険の物語である。ハッシュを元通り姿が見えるようにするために、おばあちゃんとハッシュはオーストラリアの各地(アデレード、メルボルン、シドニー、ブリスベーン、ダーウィン、パース、タスマニアのホバート)を駆け巡

り、それぞれの土地で人間の食べ物（アンザックビスケット、モルネー、ミンティ、ステーキとサラダ、パンプキンズコーン、ベジマイトサンドウィッチ、パブロヴァ、ラミントン）を食べ、魔法が解けて再び見えるようになるまで冒険を続ける。絵本には都市や食べ物だけでなく、オーストラリアに生息する動物（ポッサム、ウォンバット、クカバラ、ディンゴ、エミュー、コアラ、カンガルー）も登場する。

授業デザインの実践においては、オーストラリアの地理や文化を自然に導入しやすい Setting/Scene であること、Participants がポッサムの少女とおばあちゃんという温かみのある関係であること、Ends が魔法を解くことにあること、Act sequence がわかりやすいながらもダイナミックな流れであること（魔法で見えなくする→見えるようになりたいハッシュ→一生懸命解決策を探すおばあちゃん→ハッシュとおばあちゃんの冒険→見えるようになった）が、コンテキストを授業に生かしやすくしていた。また、1983 年刊行以来世界中の子どもたちに愛読され続けてきた国際的ベストセラーの絵本であることからわかるように、筋の展開の豊かな面白味が授業の流れを作りやすくした。

### 3.3 タスク・ベースの考え方と実際

コア・カリキュラムでは、演繹的に文法を学習してから言語を使用するのではなく、言語を使用しながら言語を習得することを明示している。言語使用についても、機械的練習でなく、コンテキストに適切な意味のやりとりを指している。また、小学校学習指導要領解説外国語編第2節2(3)に、「言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。」（文部科学省，2017a, p. 40）とあり、言語使用を通した言語学習が意図されている。子どもの第二言語習得の特徴である全体的処理から分析的処理へと進む言語処理能力を考え、語句、表現、文法などの言語形式を学習対象として明確に提示してコミュニケーションが後手に回る授業は回避したい。タスクという課題解決型の言語活動が今回の授業デザインの核となった。

#### 3.3.1 タスク：言語使用を通した言語習得

コミュニケーション・アプローチのひとつにタスクを用いた指導法がある。Ellis and Shintani (2014)はタスクの条件として4点挙げている。1つ目は言語形式ではなくメッセージの意味が最重要であること、2つ目は課題達成のための情報を伝えたり意見を表明するなどのギャップがあること、3つ目は自分の言語的または非言語的リソースを自由に活用すること、4つ目は課題を遂行した結果の成果があることである。

このようなタスクの条件と、「外国語活動」及び「外国語」における言語活動を比較

してみよう。新学習指導要領では「言語活動」は基本的なものであり、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味し、言語形式の練習に終わらないようにと注意が喚起されている（文部科学省, 2017b, p. 23）。したがって、タスクも新学習指導要領の言語活動も、言語形式の練習ではなく、コミュニケーションの目的を達成するために総動員される能力の育成を目指すものと捉えることができる。知識及び技能だけでなく、思考力、判断力、表現力も含まれ、異文化理解、やり取りの能力も含まれる（松村, 2017, p. 60）。

### 3.3.2 実践

絵本のストーリーにタスクを組み込んでいく形で授業をデザインした。Ellis and Shintani によるタスクの条件 1 点目については、2 時間通しての単元全体の目標 Goal of Lessons 「ハッシュを救おう！～オーストラリアを大冒険～」を設定して授業を展開した。単元 1 時間目では、Today's Goal ①「オーストラリアってどういう国だろう？」と Today's Goal ②「お助けアイテムを手に入れよう！」を設定した。言語形式を教えることから始めるのではなく、都市については地図のパズル（図 1）を、食べ物についてはスリー・ヒントクイズ形式のカルタでの言語活動（図 2）を利用して、見えなくなったハッシュを救うために必要なオーストラリアの都市と食べ物について知識理解を促進した。

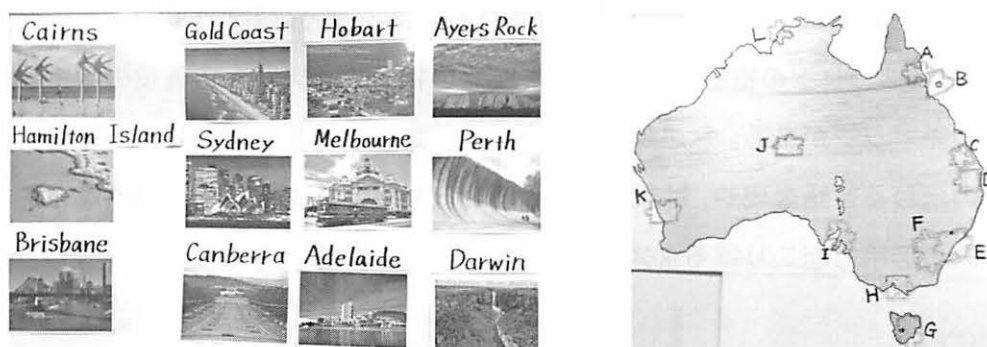


図 1 オーストラリアの都市当てクイズ：都市の提示とパズルのパネル

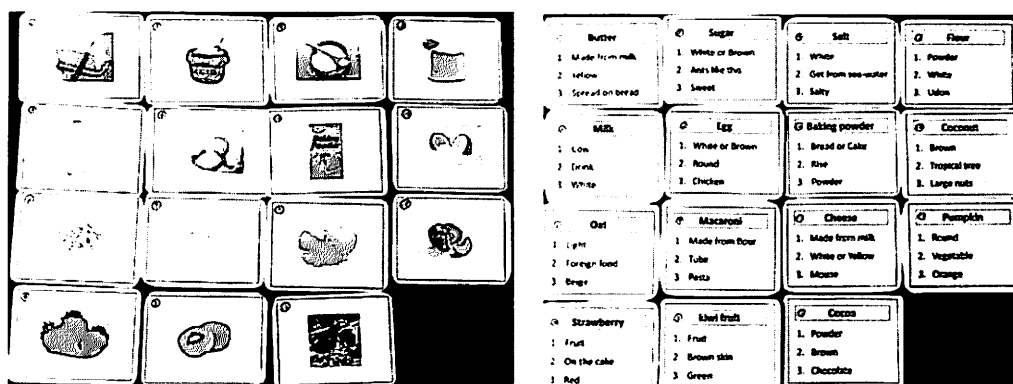


図2 オーストラリアの食べ物についてのスリー・ヒントクイズ式カルタ

Ellis and Shintani によるタスクの条件2点目のギャップと3点目の言語・非言語リソースの自由な活用については、単元2時間目に「魔法を解く料理を完成させよう！」という Today's Goal ③を達成するための、ハッシュの魔法を解く料理の食材をお店から買うタスクに表れている。児童はグループごとに MISSION カードを配付され、絵本に出てきたオーストラリアの食材をお店から買うというタスクである。図3にあるように、「ハッシュを救う料理を作るために番号が付いている食材を調達せよ。」とあり、グループによって料理名が異なる。例えば、ラミントンの場合は①バター、②砂糖、③小麦粉、④卵、⑤ベーキングパウダー、⑥牛乳を調達するよう求められている。お店は教員役の学生が MENU (図3) を見せて開いており、児童が買いに行く。言語材料“Do you have ~?” “How about ~?” “Thanks/Thank you.”が使用されるであろうと想定しているが、これらの表現を使用するようとの指示は出していない。買い物をする児童と店員役の学生との間には情報のギャップがある。意思疎通の道具は、想定した言語表現以外にも不完全ながらも意味の伝わる言語表現や、対象物を指し示したりジェスチャーを用いるなどの非言語リソースの活用も起こり得るタスクのデザインとなっている。

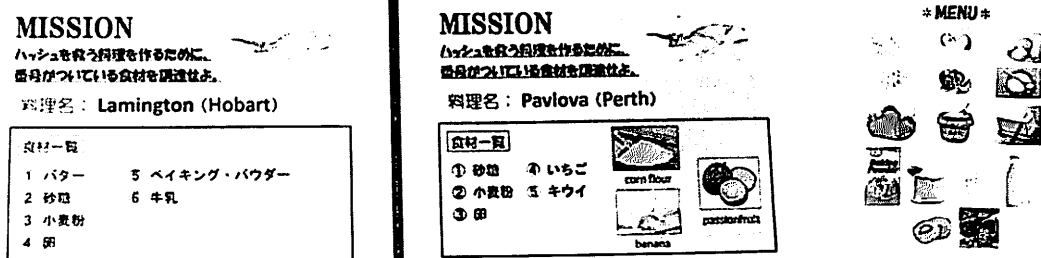


図3 魔法を解く料理の食材調達タスク：ミッションとメニュー



Ellis and Shintani によるタスクの条件 4 点目の成果は、お店から買い物をするという発話行為を経て手に入れた食材のカード（図 4）に表れている。

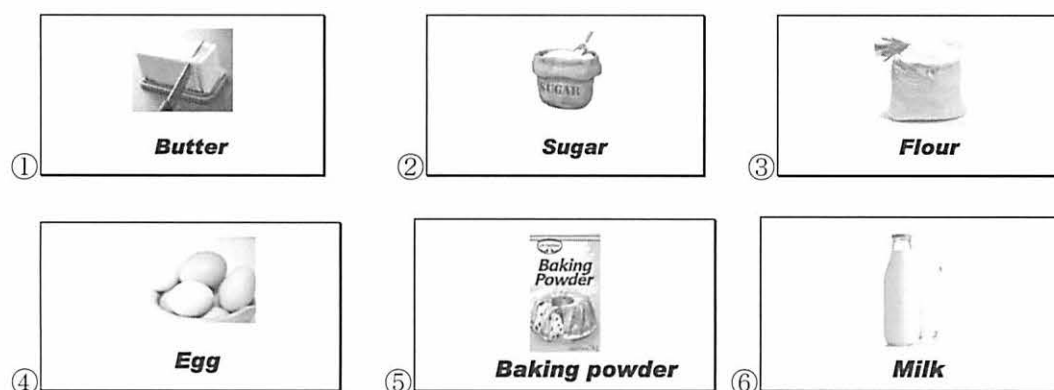


図 4 タスクの成果:買い物で集めた食材カード（ラミントンの場合）

### 3.4 異文化理解の捉え方と実際

コア・カリキュラムでは、異文化理解については「異文化理解に関する事柄について理解している。」と書かれており、タスクの関連箇所にあるような「指導に生かすことができる」というような技能を求める記述はない。

#### 3.4.1 異文化理解の捉え方

小学校学習指導要領解説外国語編第 2 節 3(3)教材の選定の観点イに、題材として英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然に関するものを取り上げ、日本人のそれらとの比較の中でより深く理解することとあり、児童の発達段階や興味関心に即した適切な題材を選択することの大切さが記載されている（文部科学省，2017a, p. 71）。

#### 3.4.2 実践

*Possum Magic*は、30年以上の長きにわたって読み継がれているオーストラリアの絵本である。その物語自体が異文化理解の題材であるが、今回の授業デザインでは、パズルのタスクで知ったオーストラリアの都市と物語の冒険のストーリーを最終的につなげることで、絵本を異文化理解に活用したといえる（図5）。また、ハッシュの姿を元に戻す食べ物を探す冒険に出てくるオーストラリアの料理についても、物語につなげる形で理解できるようにデザインした。

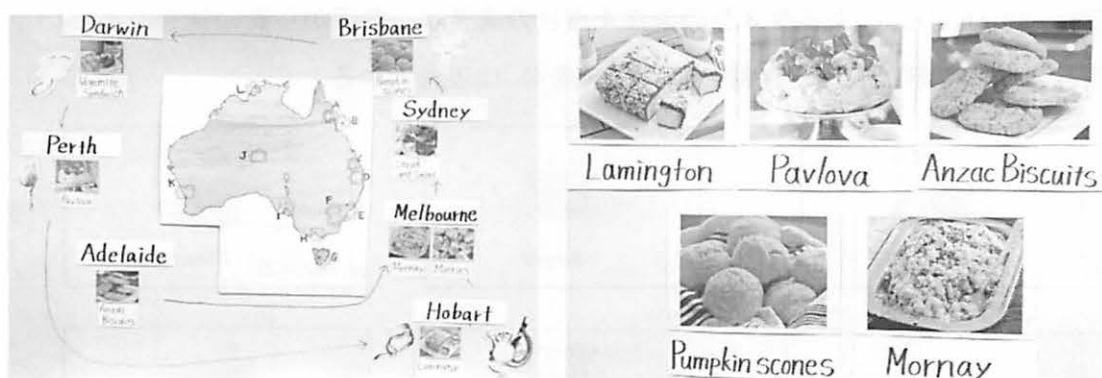


図5 絵本のストーリーとつなげたオーストラリアの都市と料理の提示

この授業の約3週間前の平成27年11月6日に、児童たちはオーストラリアの小学生とスカイプで交流をしている。その交流によって、オーストラリアへの興味関心は引き出されている状態であるが、今回の授業でもオーストラリアに対して別の角度から興味関心が喚起されたようであった。したがって、直接的にコミュニケーションを行う交流と同時に、教室でできる異文化理解の授業も融合させながら、相補関係により異文化理解を進める授業デザインを追究していく必要がある。

#### 4. おわりに

絵本は様々な用途に応える。その付加価値は高い。本稿では、*Possum Magic* を言語リソースおよび文化リソースとして、小学校外国語科における授業デザインの一例を示した。この事例によって、題材の選定によっては、異文化理解、異文化間コミュニケーション、言語習得を統合した形での授業をデザインすることが可能であることを示した。

今後、教員養成および現職教員研修において、授業デザイン力の育成をより充実させていけば、教員は教科書で授業を進めることに加えて、目の前にいる一人ひとりの児童の発達段階や興味関心を考慮した上で、自身の発想と創造力を生かした豊かな授業をデザインし、小学校外国語科を発展させていくことができると期待される。

#### 謝辞

本稿は、JSPS 科研費 JP16K13255 の助成を受けて執筆したものである。

授業の機会を提供し、授業計画および実施に協力してくださった秋田大学教育文化学部附属小学校教諭の石田智之氏に感謝申し上げる。

## 引用文献

- Ellis, R., & Shintani, N. (2014). *Exploring language pedagogy through second language acquisition research*. London: Routledge.
- Fox, M., & Vivas, J. (1983). *Possum magic*. Scholastic.
- Hymes, D. (1972). Models of the interaction of language and social life. In J. Gumperz & D. Hymes (Eds.), *Directions in sociolinguistics: The ethnography of communication* (pp.35-71). New York: Holt, Rhinehart & Winston.
- 東京学芸大学 (2017a) 『文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」平成28年度報告書』東京学芸大学.
- 東京学芸大学 (2017b) 『教員養成・研修 外国語（英語）コア・カリキュラム【ダイジェスト版】』東京学芸大学.
- 松村昌紀（編）(2017)『タスク・ベースの英語指導—TBLTの理解と実践』東京：大修館書店.
- 文部科学省 (2017a) 『小学校学習指導要領解説外国語編』  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387017\\_11\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387017_11_1.pdf) (2018年3月29日閲覧)
- 文部科学省 (2017b) 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_1.pdf) (2018年3月29日閲覧)